

第3章 めざす方向の実現に向けた推進施策

II 自立し、交わり、みんなで支えあう郷

5 住民主体の地域づくりと担い手の育成

【めざす方向】

○多様な担い手による地域づくり

集落の小規模・高齢化がより進み、これまで活動してきた集落・地域のメンバーのみでは、活動の継続が困難になりつつあることから、U I ターン者の参画を含めた農林業の後継者や地域リーダーの育成とともに、N P O、企業、学生などの多様な外部人材の参加も求め、県民全体で地域を支えていく体制づくりを推進します。

【主な施策】

○地域づくりのリーダー確保

高齢者や若者、女性を問わず、住民による新たな地域づくりリーダーの確保を図ります。

○農林業の後継者育成

地域の主要産業である農林業の後継者を育成するため、新規就業のための資金の貸付けや研修・研究活動を支援します。

農業については、平成27年1月に開校した「とやま農業未来カレッジ」での技術習得を支援するとともに、青年就農給付金の活用による研修期間や就農直後の所得確保を支援します。

○U I ターン者の活用

若者を中心としたU I ターンを促すとともに、地域おこし協力隊を含め、地域社会の一員として都市で培った経験や能力を活かした積極的な地域づくりへの参画を推進します。

○外部人材の参画による支援

N P O、企業、学生、ボランティア団体などによる集落サポート活動、活動団体のネットワーク構築、インターンシップ、企業の社会貢献や厚生活動など、外部の多様な人々の中山間地域活性化に向けた活動への参画を推進します。

○パートナーシップの推進

都市部の企業、N P O、団体等と地域、集落との結び付きをより一層強め、地域貢献等の活動継続の可能な責任ある担い手となりうる活動への参画を推進します。

【具体的な事例】

CSR活動に取り組む企業と集落との連携

南砺市では、合掌造り家屋に必要な茅を地域で自給するため、茅場の再生、活用を図り、持続可能な地域づくりをめざしています。

企業・団体等と中山間地域との連携の相談窓口「富山県パートナーシップ推進デスク」では、地域社会への貢献（企業のCSR活動）に取り組む中日本高速道路㈱とのマッチングを行いました。

中日本高速道路㈱と越中五箇山菅沼集落保存顕彰会は、茅場の再生・保全活動の取組みに関する協定を締結することとなり、県内外より社員が訪れ、茅場の下草刈り、茅刈り、茅株の植え付けに取り組んでいます。



農業・農村サポーターが中山間地域の共同活動に参加し、交流を深める取組み

氷見市のNPO法人速川活性化協議会は、とやま農業・農村サポーター活動支援事業のサポーター受入地域として登録し、特産のさつまいも収穫や粃殻の燻炭づくり作業に、サポーター団体として登録された都市住民や学生が参加しています。

作業の休憩や昼食時には、地元住民と都市住民等と一緒に地元料理等を味わい交流を深めています。さらに、伝統工芸のわら細工等の体験が楽しみながら行われており、地域に賑わいを感じられるようになっています。



地域内外の多様な活動組織間の連携

富山市、上市町、立山町の中山間地域で地元の活性化に取り組む組織や、これらの組織と連携しているNPO、生活協同組合等の団体が、多様な活動組織間の連携を目指したネットワークにより、意見交換会を開催するなど、結びつきの強化に取り組んでいます。



集落と地域内外の団体・企業等との連携

高岡市福岡町五位集落では、地域農産物の特産化を目指してサツマイモ「安納芋」の栽培に取り組み、地域の活性化を図っています。

五位営農組合は、中山間地域チャレンジ支援事業を活用し、安納芋の栽培面積を拡大させ専門学校生等と連携を図り、苗植・収穫体験をはじめ、スイーツ、ジェラート、ポタージュ等の新商品を開発しています。

これらの商品は、地元の収穫祭や市内のイベントでの販売のほか、県外の百貨店でも販売を行っています。今後さらなる栽培面積の拡大と販路拡大に努めていきます。



【主な事業】

- 中山間地域チャレンジ支援事業 [農村振興課]
企業・団体等から提案された中山間地域の活性化に向けた活動を推進
- とやま農業・農村サポーター活動支援事業 [農村振興課]
中山間地域における農村ボランティア活動を推進
- 中山間地域保全パートナーシップ推進事業 [農村振興課]
中山間地域の集落と企業・団体・学生等による協働活動の取組みを推進
- 未来を拓く農業者育成事業 [農業経営課]
とやま農業未来カレッジでの農業研修、就農相談会の実施など
- 新規担い手確保総合対策強化事業 [農業経営課]
新規就農者の農業機械等の整備支援や青年就農給付金の交付など

第3章 めざす方向の実現に向けた推進施策

Ⅱ 自立し、交わり、みんなで支えあう郷

6 集落機能の強化及び集落間ネットワークの形成

【めざす方向】

- 集落機能の維持・強化と集落間ネットワークの形成
 - ・集落機能の維持は集落の存続に関わることから、集落の自発的・主体的な取り組みを基本に、集落機能の維持・活性化を推進します。
 - ・特に高齢化や過疎化の著しい集落については、広域の協働体制を構築することにより、各集落がそれぞれ役割を担い、集落間でのネットワーク形成により、地域全体でコミュニティ機能の維持・強化を推進します。

【主な施策】

- 集落活動の活性化
 - 農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るための集落の共同活動に係る支援を行い、地域資源の保全管理を進めるなど、集落活動の活性化を推進します。
- 集落間ネットワークの形成
 - ・中山間地域等直接支払制度や多面的機能支払制度の集落協定などを活用した共同活動の取り組みを広げていくとともに、複数集落が連携しつつ、各集落がそれぞれ役割を持って協働して行う活動を促進します。
 - ・小学校区や旧村単位など、集落間のネットワークの形成を促進し、複数集落規模での地域組織の活動等を支援します。

【具体的な事例】

集落間ネットワークによる中山間地域の活性化

魚津市中山間地域連絡協議会は、市内中山間地域全ての集落で構成され、鳥獣害対策や景観作物（ひまわり）の作付けなど、地域ぐるみの活動を展開しています。

集落間連携により、取り組みが消極的になりがちな地域の悩みや苦労を互助の精神で補完しあうネットワークが築かれています。

また、意見交換、現地視察等を通じて若者受入のための地元住民の意識改革に取り組み、都市住民との交流など、新たな活動に繋げています。



【主な事業】

■多面的機能支払支援事業〔農村振興課〕

地域ぐるみによる地域資源の保全・管理活動への支援

■元気な中山間地域づくり支援事業（中山間地域等直接支払制度）〔農村振興課〕

集落協定に基づき農業生産活動を行う集落に対する支援（交付金）

Ⅱ 自立し、交わり、みんなで支えあう郷

7 文化・資源を活かした地域の魅力向上

【めざす方向】

○特色ある文化資源の保存と活用

中山間地域の緑豊かな自然、古くから育んできた獅子舞などの伝統文化、都市にはない価値と魅力に溢れた数多くの文化資源など、これらの保存・継承と活用を推進します。

【主な施策】

○地域の文化資源の魅力の再認識

中山間地域で育まれてきた文化資源の魅力を発掘し、価値を再認識する取組みを推進するとともに、良さや魅力を磨き上げる活動を推進します。

○文化資源を活かした地域の魅力向上

地域の優れた文化資源を活かした特色ある芸術文化の振興や観光資源、イベント、特産品、食文化等の魅力の磨き上げなど地域の魅力の向上に取り組む活動を支援し、地域の活性化を図ります。

○伝統文化の保存・継承

獅子舞など伝統文化を子どもたちに伝承する活動や、国・県指定文化財の保存修理等の推進等により、郷土への誇りと愛着を抱きながら伝統文化を保存・継承します。

○雪の文化の継承と創造

冬の衣食住に関わる生活の工夫など、雪国の伝統的な生活文化を保存・継承するとともに、雪に親しみ雪を楽しむ富山の冬の再発見や冬を楽しむ文化活動の振興に努め、ライフスタイルの変化に応じた雪の文化を創造します。

○水を活かした文化の承継と発展

水の恩恵や大切さを見直し、地域で育まれた治水や利水、伝統産業等暮らしの中の水文化を次世代に継承し発展させるため、番水や巻江のような水配分方法や打ち水などの水文化の保存再生活動等を促進します。

【具体的な事例】

優れた芸術空間を活かした世界に開かれた舞台芸術拠点：利賀

利賀芸術公園一帯は、合掌づくり劇場や自然に溶け込む野外劇場など創造性あふれる芸術空間を有しています。平成18年3月に、全国初の芸術特区「舞台芸術特区TOGA」に認定され、劇場の誘導灯設置規制（消防法）がいち早く緩和されました。

優れた芸術環境が国内外から高く評価され、世界をリードする舞台芸術の公演、国際的な共同制作や人材育成、中高生、大学生など幅広い世代の演劇講習や鑑賞会が実施され、世界に開かれた舞台芸術の拠点となっています。



とやま文化財百選

県内各地に残る身近な文化財を対象に、郷土の誇りとして末永く受け継いでいきたいものを選定して、県民がふるさとの文化財の価値を再認識し、地域ぐるみで保存・活用していくきっかけにさせていただくことを目的とした取り組みです。

平成16年度「土蔵」100件、17年度「獅子舞」111件、18年度「祭り」103件、19年度「年中行事」101件、20年度「お城」108件、21年度「近代歴史遺産」106件、22年度「歴史的まちなみ」104件、23年度「名勝」111件を選定しました。



【主な事業】

■地域文化力向上・活性化支援事業 [文化振興課]

まちづくりに文化を活かし、にぎわいを創出しようとする県民や団体の活動への支援

■文化財を生かしたふるさとづくり [生涯学習・文化財室]

県内の貴重な文化財の指定・登録を進めるとともに、文化財の保存・活用事業を支援

Ⅱ 自立し、交わり、みんなで支えあう郷

8 全国に誇れる地域の魅力発信

【めざす方向】

○全国に誇れる魅力の発掘と発信

本県の中山間地域には、美しく豊かな自然、歴史・伝統文化、特産品等が数多くありますが、全国的に認知されたものは一部にとどまることから、県民自身による地域の魅力と価値の再認識を図るとともに、全国発信していきます。

【主な施策】

○地域資源の価値を高める活動への支援

地域資源を活かしたイベントやまち並み整備、魅力ある景観形成など資源の価値を高め、県民自身が地域に誇りと愛着を感じながら、地域の良さや魅力を磨き上げる活動を支援します。

○地域の魅力の再発見の推進

- ・自然、歴史、伝統文化など様々な地域資源について、スタンプラリーやバスツアーなど実際に体験しながら魅力を再発見し、一人ひとりが誇りをもってPRする取組みを推進します。

○地域の商品・サービス・地域イメージのブランド化

- ・地域の特産品等の県内外でのPR、「とやま食の匠」制度の活動支援や、「とやま食の街道」のPRと魅力の充実などにより、食のブランド化を推進します。
- ・富山の地域イメージのブランド化を図るため、中山間地域での生活の魅力を発信し、暮らし良さを全国にアピールします。

○地域の魅力発信の仕掛けづくり

- ・県PR誌、ホームページ、メールマガジン、テレビ、雑誌等の多様な媒体の活用により、中山間地域の魅力を県内外に向け継続的に発信します。
- ・「とやま大使」、「とやまファン倶楽部」など富山を応援する人的ネットワークを活用します。
- ・中山間地域をはじめとした特産品の展示販売・PRを推進するために、東京アンテナショップ「日本橋とやま館」、「いきいき富山館」やネットショップなどを活用します。

【具体的な事例】

「越中とやま食の王国」

「越中とやま食の王国フェスタ」は、『食のとやまブランド』の魅力の再発見、創造・発信」をテーマに平成19年度から開催しています。

「秋の陣」では、富山の海・野・山の幸を集め、「富山型食生活モデルメニュー」の実演や、「とやま食の匠*」による創作料理等の実演など、収穫の恵みに感謝しつつ、生産活動等の成果や富山の食の魅力をアピールしています。

「冬の陣」では、「越中料理と地酒を楽しむ会」を開催し、県産食材を使った越中料理と地酒を堪能してもらうなど、とやまの味覚をアピールしています。

*とやま食の匠

特産物の生産や県産食材を使用した伝承料理、創作料理に関して、優れた技術・技能を有する個人・団体を認定し、「食のとやまブランド」を支える人材を育成するとともに、食の魅力を県内外に発信しています。



「とやま食の街道」

「とやま食の街道」は、本県の「海」「野」「山」という変化に富んだ自然の宝庫から生まれる新鮮で多彩な食材、食文化の魅力を全国に発信しています。

とやま里山料理街道では、浄土真宗ゆかりの「報恩講料理」や立山信仰にまつわる「つぼ料理」など、里山のもてなしと伝承の味を紹介しています。



【主な事業】

■ふるさと魅力再発見・PR事業 [地域振興課]

県民自身が郷土の魅力を再発見・再認識し、県内外にPRする取組みを推進

■「越中とやま食の王国」づくり事業 [農産食品課]

富山ならではの食材や料理、独自の食文化を県内外にアピールするなど、「食の王国とやま」の育成・確立に向けた取組みを推進

II 自立し、交わり、みんなで支えあう郷

9 都市から農村への回帰の流れをとらえた交流拡大

【めざす方向】

- 都市と地域の人・もの・情報の交流拡大
中山間地域における豊かな自然、伝統的な食や生活を体験する交流を通して、地域の活性化はもとより、地域住民や都市住民がそれぞれの地域や生活を見直し、お互いが発展する共生・対流社会を創ります。
- グリーン・ツーリズムの取組み強化
「都市との交流による農山漁村地域の活性化に関する条例」に基づき、県が指定した「交流地域活性化センター」の企画力、情報力を最大限に活かした取組みを支援します。
- 子どもたちや学生・若者の受け入れによる地域の活性化
農山漁村への子どもたちや学生・若者の受け入れは、受け入れる地域にとっても賑わいを取り戻す機会となることから、地域ぐるみで取り組む地域への支援や受入地域の拡大を推進します。

【主な施策】

- 地域活性化活動の体制強化
「都市との交流による農山漁村地域の活性化に関する条例」に基づき、交流活性化重点地域において、地域情報の把握、地域カルテの作成などにより、地域の実情に応じた対策を提案します。
- グリーン・ツーリズムの取組み強化による農村ビジネスの展開
観光業者と連携し、「交流地域活性化センター」が取り組むとやまの「食と農」の魅力を活かした自然体験や農作業体験等を組み合わせた体験型プログラムの企画や、旅行業者への提案に支援します。
- 地域ぐるみで取り組む交流拡大や農家民泊への支援
交流人口の拡大や農家民泊に地域ぐるみで取り組む地域への支援や、受入地域の拡大を推進します。
- インターンシップ受け入れ支援
都市部の若者を中心とした農山漁村への回帰の動きに応じて、農山漁村におけるインターンシップ受入に対して支援します。

○インバウンド（訪日外国人旅行者）の受け入れの支援

日本食や食文化の「本場」を探求するインバウンドのニーズに応じて、本県の農山漁村が有する「食と農」の魅力発信を強化するとともに、自然体験や伝統文化、地域住民との交流を楽しむグリーン・ツーリズムの取組みを進め、インバウンド受入に対して支援します。

【主な事業】

- 都市農山漁村地域共創事業〔農村振興課〕
農家民泊の地域ぐるみの取組みへの支援、重点地域における推進組織の体制強化への提案、農林漁業女性組織等との連携による体験型プログラムの企画・提案に対する支援
- とやま農山漁村インターンシップ事業〔農村振興課〕
都市部の学生・若者を受け入れ、地域づくり活動や交流プログラムの実施に対する支援
- とやま帰農塾推進事業〔農村振興課〕
農業や伝統文化体験などを盛り込んだ「とやま帰農塾」を県内各地域で開講
- とやまの田舎交流支援事業〔農村振興課〕
交流人口の拡大を図る取組みに対する支援
- とやま型中山間地域資源利活用推進事業〔農村振興課〕
地域資源をフル活用した取組みへの支援
- 農山漁村振興交付金〔農村振興課、森林政策課〕
都市と農山漁村の共生・対流の促進や地域の活性化、地域資源の活用等による山村の活性化、定住・地域間交流を促進するための施設等の整備を支援

【具体的な事例】

都市との交流人口の拡大

大長谷（富山市八尾町）では、急激な過疎化が進む中で、地区を守り存続させていくために、平成17年に「大長谷村づくり協議会」を設立し、都市農村交流活動を始めました。平成20年にNPO法人化し、平成22年にはリピーターとなる都市住民を集め、「ながたん農援隊」を発足しました。

隊員は、山菜やキノコの収穫、有機野菜づくり、さらには炭焼きや輪かんじきづくり等の伝統文化にも取り組んでおり、県内外からの登録隊員数は100名を超えています。

こうした交流人口の拡大等の取組みが評価され、平成26年度第1回「ディスカバー農山漁村の宝」に選定されました。



とやま農山漁村インターンシップ

首都圏等を中心とした都市部の若者を受け入れ、地域づくりの担い手確保のための活動を支援する「とやま農山漁村インターンシップ」に、平成27年度より取り組んでいます。

参加者には約1週間、地域の農林業体験や地域づくり活動に従事し、特徴的なプログラムの体験や地域住民への意識調査等による交流を通して地域の現状や課題を把握し、若者目線での課題解決に向けた提案を成果として発表してもらい滞在型のインターンシップ事業として取り組んでいます。

若者の斬新な発想を地域の活性化に繋げるとともに、参加者には中山間地域の魅力を知ってもらい、「第2のふるさと」として再訪問するきっかけを創出し、都市農村交流を通して、地域外サポーターとしての育成や将来的な移住・定住にもつなげていきます。



第3章 めざす方向の実現に向けた推進施策

II 自立し、交わり、みんなで支えあう郷

10 豊かな人間性や社会性を育む体験活動の推進

【めざす方向】

○児童生徒の情操教育の場の提供

豊かな自然と温かい人情が残る中山間地域に子どもたちを受け入れ、自然や人と触れ合う生活を体験させることで、子どもたちの学ぶ意欲や自立心、思いやりの心を育み、基本的な生活習慣の改善を図る情操教育の場としての提供を推進します。

○社会貢献意識の醸成

子どもたちと地域の人々との触れ合いの中で、地域住民一人ひとりが社会貢献を実感し、社会の担い手としての意識を養います。

【主な施策】

○受入体制整備への支援

学ぶ意欲や自立心、思いやりの心などを育み、力強い子どもの成長を支える教育活動として、児童が農山漁村に宿泊して体験学習を行なう「子ども農山漁村交流プロジェクト」を推進するため、受入モデル地域と連携して、衛生管理等の研修会の実施など、受入体制の整備を支援します。

○学校と地域との連携による情操教育の推進

子どもたちの豊かな人間性を育むため、放課後や週末を活用して、小中学校と地域住民とが連携し、体験・交流・学びの場の提供を推進します。

○観光資源の活用

県外からの修学旅行や高校・大学等のゼミ・サークルの合宿等の誘致など、富山県観光連盟や市町と連携し、積極的にPRを推進します。

○農家民泊による農林漁業体験学習の推進

農家民泊に地域ぐるみで取り組む地域への支援や民泊受入農家への研修会などの活動を支援し、修学旅行等の受入強化と都市と農村との交流を促進します。

【主な事業】

■都市農山漁村地域共創事業 [農村振興課]

受入地域の拡大に向けた受入組織の体制整備への支援

■放課後子ども教室推進事業・土曜学習推進事業 [生涯学習・文化財室]

放課後や週末を活用した子ども教室の開設・運営支援

【具体的な事例】

情操教育と社会貢献の場を提供する「夢創塾」

朝日町蛭谷の「夢創塾」では、仲間グループと里山の生活技術、文化の伝承などに取り組んでいます。

昔ながらの「びるだん和紙」づくりの農村文化をはじめ、「バタバタ茶」等の山村の伝統的食文化など、子どもから大人まで体験できることから、生活習慣の改善を図る情操教育の場として県内外からの来訪者が多く、地域の活性化にもつながっています。



子ども農山漁村交流プロジェクト

平成20年から、総務省、文部科学省、農林水産省の3省連携にて取り組んでいる「子ども農山漁村交流プロジェクト」の受入モデル地域として、南砺市（利賀地域）、黒部市、氷見市、朝日町が指定され、県内外から年間約700人の小学生等を受け入れ、農林漁業体験を行う宿泊体験学習に取り組んでいます。

特に、南砺市利賀村地域では、平成7年度から東京都武蔵野市の小学生を、セカンドスクールとして1週間受け入れ、恵まれた自然環境の中で長期間のゆとりある宿泊体験学習を通じて豊かな情操を育むとともに、地元小学生を含む多くの方との出会いや交流により、協調性及び連帯意識に基づく豊かな人間関係の構築に寄与するなど、20年以上の交流が継続されています。



農家民泊

立山町では、町の魅力を都市部の子どもたちに伝えることで「立山ファン」を増やそうと、立山町農家民泊体験推進協議会を平成24年に設立し、地元農家の理解と協力を得ながら、地域ぐるみで子どもを受け入れるための体制作りを進め、平成26年より都市部の中学生の修学旅行を農家民泊にて受け入れています。

特に、農家民泊は、観光地を回るだけの修学旅行とは異なり、農作業と田舎暮らしという掛け替えのない体験ができるだけでなく、地方の農家の人たちと触れ合いを深めることで、人間性の向上にも繋がることから、近年、非常にニーズが高まっています。

また、受入農家にとっては子どもたちとの触れ合いを通して地元の良さを再認識するとともに、心の交流が進み、地域に活力をもたらしています。



第3章 めざす方向の実現に向けた推進施策

II 自立し、交わり、みんなで支えあう郷

1.1 定住・半定住の推進

【めざす方向】

- 多様な人材の参画による地域社会の活力維持
都市住民、とりわけ東京在住の若者には田舎暮らしに対する潜在的なニーズが相当あることから、UIターン希望者の定住・半定住を促進します。

【主な施策】

- 「くらしたい国、富山」の魅力発信・相談体制の充実
 - ・「富山くらし・しごと支援センター」における仕事と住まいの一元的な相談体制の充実、若者向けの定住セミナーなど、「くらしたい国、富山」推進本部を中心に富山暮らしの魅力を発信します。
 - ・民間事業者と連携したセミナーや相談会による空き家情報の発信、空き家物件のマッチングを図るコーディネーターの配置など、空き家の利活用による定住・半定住を促進します。
- 新幹線開業効果を活かした田舎暮らし体験の実施
 - ・新幹線開業による時間短縮効果を活かし、富山の仕事や暮らしを体験するツアーや暮らし体験モデル事業の支援など、定住・半定住ニーズの掘り起しに努めます。
 - ・「とやま帰農塾」の開講や滞在型を含む市民農園等の整備など、都市住民の就農体験を促進します。
- 意欲ある地域住民による移住者の受入促進
国内外からの移住者増に結びついている中山間地域など、定住者の受入に意欲的な地域を「定住者受入モデル地域」として指定し、受入計画の策定・実施や宿泊体験、交流施設の整備等を支援します。
- 空き家を活用した定住者受入態勢等の整備
空き家を活用した宿泊体験、交流施設の改修支援や、民間事業者と連携したセミナーや相談会による空き家情報の発信、空き家物件のマッチングを図るコーディネーターの配置など、空き家の利活用による定住・半定住を促進します。

【具体的な事例】

田舎暮らし体験講座「とやま帰農塾」

「とやま帰農塾」は、都市農山漁村交流を通じて定住・半定住を促進するため、農林漁業体験や田舎暮らしに興味のある方を対象に、平成17年度から取り組んでいます。2泊3日の田舎暮らし体験を県内12カ所で開催しています。

国民の価値観やライフスタイルが多様化し、田舎暮らしや食の安全・安心への関心が高まっている中で、豊かな自然、美しい景観、優れた伝統文化等に恵まれている本県での定住や半定住に対するニーズが高まっており、「とやま帰農塾」の参加者についても、大都市圏、特に北陸新幹線開業効果により首都圏からの参加者が増加傾向にあります。

「とやま帰農塾」は、地元塾長をはじめ住民一人ひとりが積極的に関わるため、集落で議論を積み重ねる過程や都市住民と交流する中で、地域の自然、文化など魅力ある地域資源に改めて気づく機会が得られるとともに、地域への愛着や誇りが生まれ、地域の新たな活動に結びつく可能性を秘めています。



UIターナー者の定住

富山市土で農業を営むA夫妻は、東京から移り住んで「(有)土遊野」を設立し、循環型自然農業を実践するとともに、農業・田舎暮らし体験ができるよう、親子や団体等を受け入れています。農作業を手伝う代わりに食事と宿の提供を受ける「ウーフ」と呼ばれる援農の仕組みを活用し、農業者の人材育成にも努められています。



富山市八尾町新田のBさんは、東京から故郷の富山に戻り「NPO法人アイ・フィール・ファイン」を設立し、富山市八尾町桐谷の農園で会員とともに有機農業を実践したり、活動をもとに講演会を開催するなど活躍されています。

ウーフ：「有機農場で働きたい人たち」を意味する英語の頭文字。農作業を手伝う代わりに食事と宿の提供を受ける欧州発祥の営農の仕組みとして呼ばれています。

【主な事業】

- 「くらしたい国、富山」推進本部事業　〔地域振興課〕
「くらしたい国、富山」の全国情報発信、学び楽しむ「とやま夏期大学」の開催など
- 定住・半定住受入モデル地域育成支援事業　〔地域振興課〕
定住者受入計画の策定・実施、宿泊体験、交流施設の整備等を総合的に支援
- 農山漁村振興交付金　〔農村振興課、森林政策課〕
都市と農山漁村の共生・対流の促進や地域の活性化、地域資源の活用等による山村の活性化、定住・地域間交流を促進するための施設等の整備を支援
- とやま帰農塾推進事業　〔農村振興課〕
農業や伝統文化体験などを盛り込んだ「とやま帰農塾」を県内各地域で開講
- 空き家活用等定住・半定住受入支援事業　〔地域振興課〕
空き家を活用した宿泊・交流体験施設の整備等に支援